

主任コラム3月号

主任 澤井 良子

3月に入り、残すところ今年度も1カ月となりました。4月からは、ひよこ組の子からくま組の子までは1つ上のクラスへ。年長児は小学生になります。残された時間が子ども達にとって何が1番大切かを考えながら保育していきたいと思えます。

2月16日は、深伊沢小学校の1年生と年長児との交流があり小学校へ行ってきました。小学校ではどのように勉強しているのか、どのような環境なのかを年長児が感じることができたらと思い、小学校の先生と連絡を取り合いながら進めてきました。1年生の教室に入ると算数の時間でした。数の読み方(数え方)や、机の横で授業を見ている年長児の名前を、1年生がパソコンで打って黒板のスクリーンに映し出すというパソコンを使った授業風景も見せてもらいました。その後、各学年の教室を見せてもらってから1年生の子と体育館で交流会をしました。得意なこと披露をしてもらったり、鬼ごっこをしたりと最初は距離のあった子ども達でしたが、「〇〇ちゃん、またね」と、保育園で去年度まで一緒に過ごしていたことを思い出しすぐに打ち解けていました。得意な事披露で見せてもらった「お手玉」「こま回し」「けん玉」「縄跳び」などは、保育園の伝承コーナーでやっている子もいるので、より刺激になったと思います。何より子ども達が『小学校、楽しかった』と言っていた事で、入学する楽しみや、学校という場所を身近に感じられたことと思います。これからは保育園だけの活動だけではなく、小学校との連携を深め小学生や卒園児にも園に来てもらったり、地域の方にも開かれた保育園となっていけるようにしていきたいなと思えました。

ある日の幼児クラスでの出来事ですが、午後の時間に年中児の女の子と男の子が絵本の取り合いをしていました。女の子は「絶対に貸したくない」と言い、男の子は「後でもいいから貸して欲しい」と言いますが、やりとりが続き周りにいた子ども達が「あそこ(ピーステーブル)で話したら?」と提案しました。子どもの世界では日常茶飯事のことですが、私は、お互い自分の思いを伝えること・解決しそわない事を周りの子が察してピーステーブルへと誘った事に子ども達の成長を感じました。【対話】と言う事ができるのは人間だけです。話すことが希薄になりつつある今、こういった思いのぶつかり合いを幼少期にたくさん経験し、大人になった時に自分の力で考えられる子達になって欲しいと思います。それには、脳の敏感期である0歳から6歳の時期に(感情のコントロールは特に2歳頃がピークになります)たくさん子ども同士のやり取りを大切に、子どもを理解し見守る大人や、発達にあった環境を整えていく必要があることを私たち保育士も常に学びを深めていかなくてはならないと思えました。

深伊沢小学校と交流

